



## 編集月旦 2013年10月号

★10月15日に臨時国会が召集され、安倍総理が所信表明演説をおこないましたが、1月と同様に、「若者と女性」の成長力には期待していますが、「高齢者」の潜在力についての言及はありませんでした。年金暮らしの高齢者には「アベノミクス」の恩恵はこれまでこれからもありませんし、金融緩和で貯蓄の購買力は目減りし、格差が拡大し、高齢者への敬意は薄れるばかりです。

★10月1日は「国際高齢者日」でした。国際的に伝える成果があれば、この日に発信するのがいいのですが。今年もなかったようです。1999年9月の高連協による「高齢者宣言」は、世界に誇れる内容を掲げています。改めて確認し実行に活かす宣言です。

☆旧暦9月9日（10月13日）は「重陽の日」です。中国では「重陽節」は長命を寿ぐ意味合いから、この節日を「敬老節」にあてています。10月を「敬老月」としています。わが国では目立った活動をみかけません。

★『丈人のススメ 「人生90年時代」をこう生きる』（上）を特集といたしました。

第一章から第四章までを公表いたします。次号で第五章から第八章までをまとめ、前著から3年間の活動でえた具体的な内容を盛りこみ、高齢者個人の位置から記述しています。「アベノミクス」効果が一過性であるのは間違いない、その後の国家的対策の柱となる「長寿社会（成熟社会）」を提案しています。

第一章 「現役人生六五年」をすごして 第二章 「ヒッペガシ娘」と「ツカエナイ親」

第三章 途上国産中流品に囲まれて 第四章 四季と特性の息づく地域に

第五章 エイジング・イン・プレイス 第六章 住民・市民・国民として

第七章 「よろず佳き国際人」として 第八章 「人生九〇年時代」をこう生きる

次回に完成させて発刊を急ぎます。ご意見をお寄せください。

☆この春の高連協総会で提案された「高齢社会運動シーズン」を、秋の国民運動とすべく具体策が検討されています。関心のある方々の参加が期待されます。

★「歴史に学ぶこと」を再掲いたします。「憲法改正」をし、外交的に孤立しても「国防軍」を保持し、それを世論が支持するとなれば、日本は「歴史に学ばない国」という批判がいっそう強まることになります。これらの動きは近隣被災国にとってはかつての悲惨な過去を想起させるからです。14年にわたった戦争は、軍の独断専行ではじまり、国際的に孤立しても世論を味方につけて強行し、振り子は極限まで振れて敗戦によって終わりました。日本が「平和をみずからかちとる」には、国際的孤立を避け、国防軍依存とそれを支える世論の醸成という道を阻止してはじめて、「歴史に学んだ」国として「平和」をみずから手にします。そのためになすべき政策は、強い「地域社会」の形成です。「特性を活かした地域の発展」への国民運動こそが、国防軍によらずに国を護る意識を醸成し、平和の礎を強くすることになります。これならどこの国からも批判を受けることはありません。そして平和の証としての「高齢社会」の形成です。これは「歴史をつくる」ことになります。

☆「地域」へ。高齢者のエイジング・イン・プレイスの活動。「高連協フォーラム」では、樋口恵子代表も堀田力代表とともに「地域活動」を呼びかけています。3000万高齢者による国民運動として、急ぎ動き出さねばなりません。一過性の「アベノミクス」が破たんしてからでは遅いからです。

★一人ひとりが長寿を喜ぶ「日本長寿社会」の達成とアジアに住むだれもが等しく豊かさを享受する「アジアの共生」は、ふたつながら平和の証であり日本高齢者の課題であり本誌の課題です。（編集人 記）

